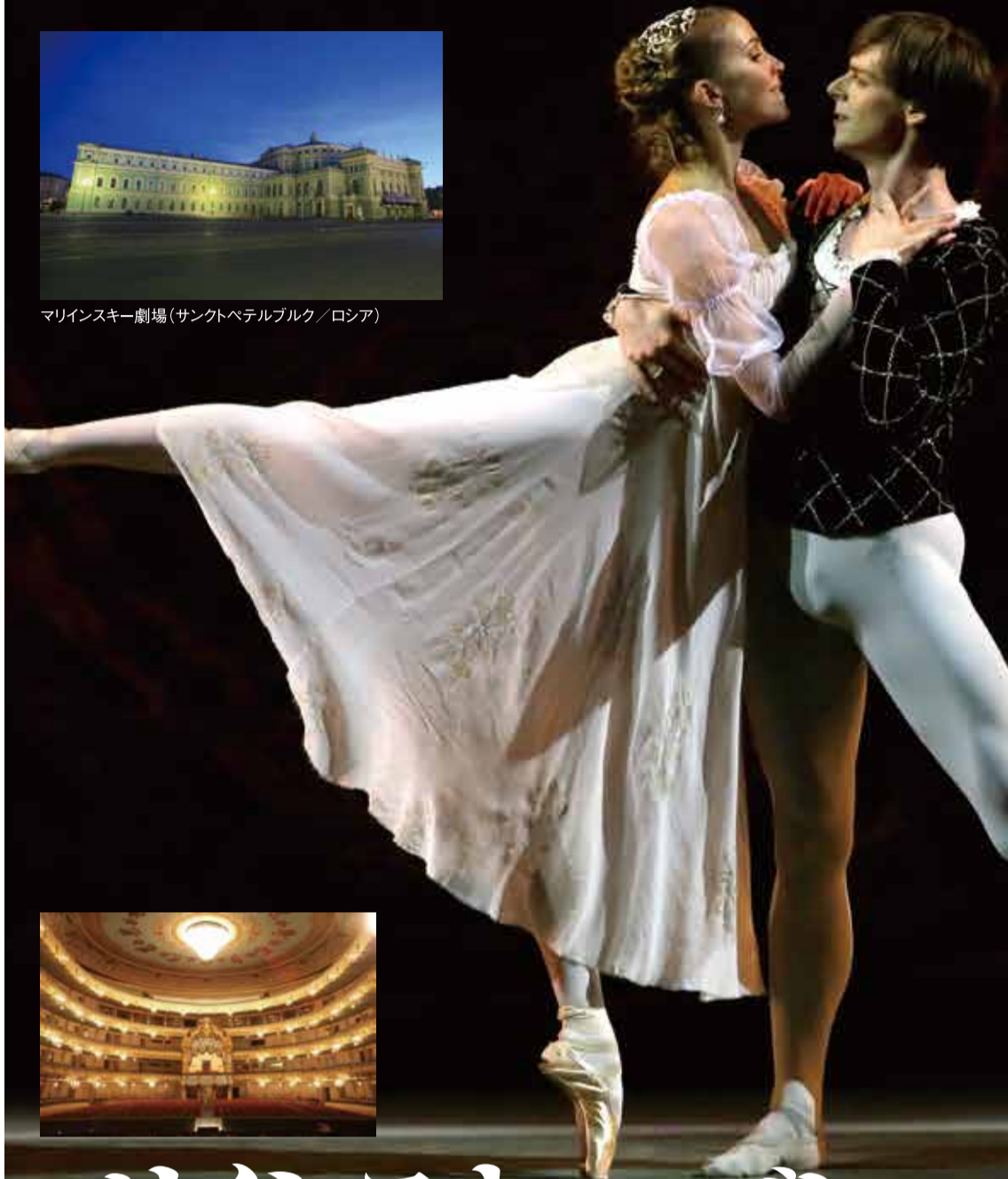


今秋、三重から日本ツアースタート 傑作バレエの原点はここから。



マリンスキー劇場(サンクトペテルブルク/ロシア)



マリンスキー・バレエ ロミオとジュリエット

ロシアが世界に誇る古典バレエの原点 —「マリンスキー・バレエ」

ロシアのサンクトペテルブルクを拠点とする名門バレエ団「マリンスキー・バレエ」。バレエ好きの方はキーロフ・バレエと言った方がなじみがあるのではないのでしょうか。元々はマリンスキー・バレエという名称で生まれたものの、旧ソビエト連邦時代にキーロフ・バレエに名称変更され、1990年代初頭まで活動を行っていました。その後、ソビエト連邦の崩壊と共に元の名称に戻り、現在に至ります。

世界五大バレエ団のひとつ — その最高峰の美しさ

世界五大バレエ団をご存知でしょうか。仏のパリ・オペラ座、英のロイヤル・バレエ、米のアメリカン・バレエ・シアター、露のボリショイ・バレエ。そして今回登場するマリンスキー・バレエの五つのバレエ団を指しています。その中でも、「マリンスキー・バレエ」は世界中のバレエファンを熱狂させる、世界最高峰のバレエ団と評されています。

最高峰と評されるのには様々な理由があります。その確固たる理由の1つは、創設当時から受け継がれている宮廷バレエを起源とし、古典的なバレエの美しさを崩さずに、優雅さと上品さが、今なお受け継がれていることだと言われています。今回上演する「ロミオとジュリエット」はバレエ団のお家芸の作品の1つで、「白鳥の湖」、「眠りの森の美女」、「くるみ割り人形」の三大バレエと呼ばれている傑作たちとともに全て、このマリンスキー・バレエでの上演がきっかけとなり、不朽の名作となりました。クラシック・バレエの一番の見どころであるパ・ド・ドゥ(※1)やバレエの基本のひとつであるポアント(※2)などの優雅さがまさに象徴的でしょう。そして、マリンスキー・バレエといえばコール・ド・バレエ(※3)と言われるほど評価が高く、「白鳥の湖」では群舞のダンサーがまるで一筋の糸でつながれているように登場します。まだロシアがソビエト連邦であったころは、バレエダンサーの背丈や手足の長さまで揃えていたという逸話が残されているくらいです。

— 数多くの歴史的ダンサーを輩出し、 バレエ界を牽引し続ける —

200年以上の伝統がある世界で最もハイレベルなバレエ学校を持ち、バレエ団と共に数々の逸材を輩出しています。20世紀の最も進歩的なバレエ振付家であり、ニューヨーク・シティ・バレエ団の創設者であるジョージ・バランシンもこのマリンスキー・バレエの出身者の1人です。また1988年に著名なバレエダンサーで振付家の熊川哲也が日本人として初めてマリンスキー劇場で踊り、近年では2013年に石井久美子が日本人として初入団するなど話題となりました。

11/20[金]

大ホール

往復

マリンスキー・バレエ「ロミオとジュリエット」

18:30開演(18:00開場)

全席指定 S席15,000円、A席12,000円、B席9,000円、C席7,000円

※学生全席(25歳未満)20%割引

三重県文化会館チケットカウンター TEL059-233-1122

あらすじとみどころ

舞台はルネサンス期のイタリア・ヴェローナ。代々憎しみあう旧家モンタギュー家とキャピュレット家は争いが絶えない。ロミオは、友人とキャピュレット家の舞踏会に忍び込み、ジュリエットと出会い、お互いに運命の恋に落ちる。



© V.Baranovsky

そして、舞踏会后、ロミオはジュリエットの部屋のバルコニーに現れ、愛を確かめ合う。

🔥 情感あふれるもっとも感動的な場面
「バルコニーのパ・ド・ドゥ」(表紙画像場面)は必見!

2人は、思いが募り、密かに結婚式を挙げる。恋を知った喜びあふれる瑞々しいジュリエットは希望に輝いている。

ロミオが街に戻ると、親友・マキューシオとジュリエットの従兄弟・ティボルトの乱闘が始まり、ついにはマキューシオが殺されてしまう。それを見てカッとなったロミオは、ティボルトを殺してしまう。

ティボルト殺害の罪により、街を追われることになったロミオは、ジュリエットと最後の夜を過ごす。身を切られるような別れを迎える2人。



© V.Baranovsky

🔥 2人が踊る短いパ・ド・ドゥは、「離れたくない、どうかいかないで」というジュリエットの哀しい叫びが聞こえてくるよう。

悲しみの別れの後、ジュリエットは両親から青年貴族・パリスと結婚することを強制される。これにジュリエットは断固拒否し、ロレンス神父による「薬の服用で仮死となり、目覚めた後にロミオと二人でヴェローナから駆け落ちする。」という計画に従い薬を飲み、仮死状態となって葬られる。だが、この計画はロミオにうまく伝わらず、ロミオは墓所に駆け込み、ジュリエットの姿を見ると悲しみにくれ毒薬をあおる。目を覚ましたジュリエットはロミオの亡骸を抱きしめながら、短剣で自らの胸を刺し、後を追う。

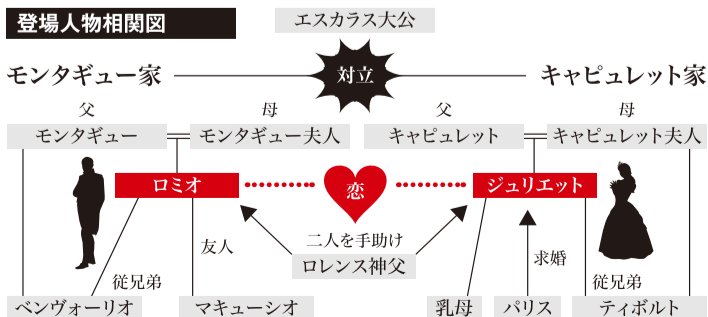


© N.Razina

🔥 他のバレエではみられない悲壮なラストはダンサーの役作りの見せどころ!

モンタギュー家とキャピュレット家は若い二人の不幸な死により、憎しみ合うことの愚かさを知る。

登場人物関連図



かんたん! バレエ関連用語講座!

パ・ド・ドゥ(※1)

男女2人のダンサーによる踊りのこと。フランス語で「2人の踊り」を意味します。テクニックやストーリー構成の面で、重要な見せ場となります。ロミオとジュリエットでは、さまざまな「パ・ド・ドゥ」が登場します。踊りと芝居の部分がわりあいはっきりと分かれている他のバレエ作品にくらべ、場面ごとの登場人物の心の動きと深く結びついている「パ・ド・ドゥ」に注目してご覧ください。

ポアント(※2)

基本のひとつであるつま先立ち技法のこと。優雅なバレエダンサーはこのポアントの綺麗さが必須であり、見えない苦労がうかがえます。

コール・ド・バレエ(※3)

ソリスト以外の、群舞や大人数の情景を担当するダンサーをひとまとめにさします。フランス語ではバレエ団の意味ももちます。